

昭和52年度宇宙開発委員会
外国人技術者招へいスケジュール

昭和52年4月27日

月日		チャップマン 通信省次官補	モレー リモセンシングセンター所長
5月10日 (火)	午前	宇宙開発委員との会談	
	昼	昼食会	
	午後	科学技術庁との会談	
	夕	宇宙開発委員会主催レセプション	
5月11日 (水)	午前	(大使館訪問)	(日本造船振興財団訪問)
	午後	(経団連訪問)	
5月12日 (木)	午前		宇宙開発事業団・リモセンシ ングセンターとの会談
	午後	郵政省との会談	
5月13日 (金)	午前	文部省・宇宙研との会談	リモセンシング利用関係省庁との会談
	午後	宇宙開発事業団との会談	帰国

(注)

チャップマン次官補は、5月16日(月)に都市センター(平河町)で開催されるISTS(International Symposium on Space Technology and Science)に出席し、翌5月17日(火)に帰国する予定である。

宇宙開発委員会とカタール通信省次官補 J.H.チャップマン氏との会談 (案)		出席者 (敬称略)	
議事次第		(カタール側)	
1 日時 昭和52年5月10日(火) 午前10時 ~ 12時		J.H. チャップマン	通信省次官補
		L.W. モーラー	リモートセンシングセンター所長
		A. ワタナベ	在日カタール大使館 科学参事官
		(日本側)	
2. 場所	宇宙開発委員会会議室	網島 毅	宇宙開発委員会委員 (委員長代理)
		吉沢 雅夫	宇宙開発委員会委員
		八藤 東禧	宇宙開発委員会委員
		斎藤 成文	宇宙開発委員会委員
		園山 重道	科学技術庁研究調整局長
		佐伯 宗治	科学技術庁官房参事官
3. 議題		5 議事録	
(1) 歓迎のことば	(5分)	議事録は、日加双方において検討し、合意のうえ、これを作成する。	
(2) 日本側出席者紹介	(5分)		
(3) カタール側挨拶	(5分)		
(4) カタール側出席者紹介	(5分)		
(5) 日本への宇宙開発の概要紹介	(20分)		
(6) カタールの宇宙開発の概要紹介	(20分)		
(7) 両国の宇宙開発政策についての意見交換	(45分)		
① 打ち上げ用ロケット開発政策			
② カタールのスペースシャトル計画への参画			
③ カタールとESAとの関係			
④ その他			
(8) 両国の協力について	(15分)		
① 従来への協力関係の概要			
② 協力の推進について			

<p>カナダ通信省次官補 J.H. ファッブマン氏との会談</p>	<p>経緯について</p>
<p>—— その1 (宇宙開発委員会) —— (案)</p>	<p>・ マニキュレータの南発状況と南発過程における問題について</p>
<p>[協議事項]</p>	<p>② スペースシャトル利用計画へのカナダの参加について ③ スペースシャトル以後の南発計画への参加について</p>
<p>1. 日本の宇宙開発の概要紹介</p>	<p>(4) カナダと ESA との関係 カナダの ESA に対する積極的な接近政策について</p>
<p>2. カナダの宇宙開発の概要紹介</p>	
<p>3. 両国の宇宙開発政策についての意見交換 (日本側提案事項)</p>	<p>4. 両国の協力について</p>
<p>(1) カナダの宇宙開発の基本方針、主要開発項目、南発過程で苦勞した問題点及び特筆すべき成果について</p>	<p>(1) 従来からの協力関係の概要</p>
<p>(2) 打ち上げ用ロケットの南発政策</p>	<p>① 昭和47年3月奉じたカナダ科学技術ミッションでの日加共同発表に基づいて南催された行政官レベルの協議において</p>
<p>① カナダが打ち上げ用ロケットの南発を行わず、火星の南発に専念するとの政策をとったことの意味と評価について</p>	<p>(i) 観測ロケットの観測機器の相互搭載の推進 (ii) 電離層観測衛星 (ISIS) のカナダにおけるデータ受信に対する日本側の協力</p>
<p>② スペースシャトルの利用</p>	<p>② カナダの電離層観測衛星 (ISIS) のデータ受信を電波研で行っている。</p>
<p>・ スペースシャトルと右乗型ロケットの利用区分について</p>	<p>③ また、日本側からの調査団の誘加及び研究者の派遣、カナダ側からの関係行政官、科学技術大臣、衆議院の交流が行われている。</p>
<p>・ 右乗型ロケットの将来における必要性について</p>	<p>(2) 協力の推進について 次のような協力の可能性が考えられる。</p>
<p>(3) カナダのスペースシャトル計画への参画</p>	<p>① 次の分野の情報交換</p>
<p>① マニキュレータの南発 (カナダがマニキュレータをもつスペースシャトル計画に参加したことに対する日本側の敬意を表明する。)</p>	
<p>・ マニキュレータを提案してシャトル計画に参画したこと</p>	

- 宇宙開発政策
- 宇宙開発の一般情報
- リモートセンシングの分野
- 通信・放送衛星の分野

② 研究者の交流等

③ 具体的協力の検討

(i) 科学衛星計画の協力

- EXOS-Aの受信データの共同解析
- 日本への科学衛星計画への力加への参加

(ii) 観測ロケット計画の協力

- 日加相互の観測ロケットに相手の機器を搭載し行う

観測の継続

(iii) 電離層観測衛星計画の協力

- 電離層観測衛星 (ISS-b)の観測データを力加で取得することに肉ちる相互協力

(iv) 日加共同プロジェクトの可能性の検討及び協力の可能性がある

場合、協力の具体的な検討を行うための事務レベルの協議の実施。

<p>カタール通信省次官補 J. H. テアツマン氏との会談 ——その2 (科学技術庁)—— (案)</p>	<p>センシング、通信・放送衛星等へ分野が考えられ、その窓口の 確認を行う。</p>
<p>[協議事項]</p>	
<p>1 日加両国の宇宙開発政策についての意見交換</p>	<p>(2) 日加共同プロジェクトの可能性について (例えば、将来、日本の開発する人工衛星計画へのカタールの の参加の可能性について、カタール側の提案があれば検討する)</p>
<p>(日本側提案事項)</p>	
<p>(1) カタールにおける技術/機器の導入と自主技術の育成</p>	<p>(3) 研究者の交流</p>
<p>① カタールの国産品の調達割合を拡大させる政策について</p>	
<p>② 導入分が衛星開発等に占める割合について</p>	
<p>(2) リモートセンシング</p>	
<p>① カタールが独自の地球観測衛星計画を有しているか否かについて</p>	
<p>② カタールのリモートセンシング活動の主眼点について</p>	
<p>(3) CTS計画の成果と向題点</p>	
<p>(4) 捜索救助衛星の開発について</p>	
<p>2 両国の協力について</p>	
<p>(1) 宇宙開発分野での情報交換</p>	
<p>対象として ① 宇宙開発政策 ② 宇宙開発一般情報 ③ リモート</p>	